

神経を除去した歯なのに何故痛い？

Vol. 21
Medical life advice

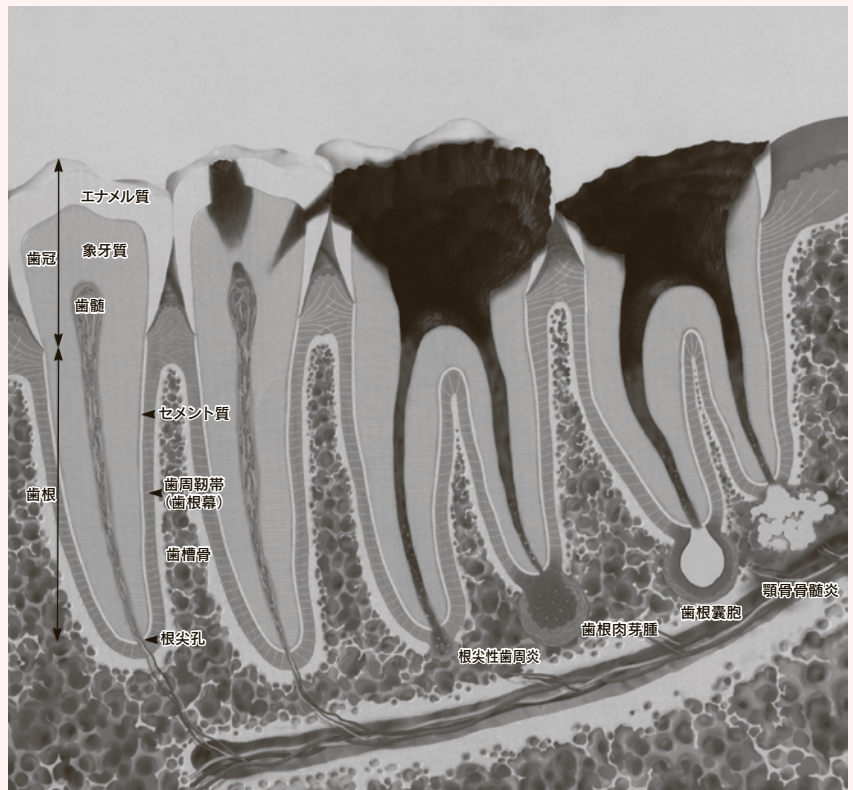
オーラルケアステーション永田歯科
永田 真一（歯科医師）

～進行したむし歯の場合～

むし歯とは、ミュータンス菌などの齲蝕病原菌によって起こされる歯が崩壊していく病気です。ミュータンス菌は生まれた時には口の中にはいません。歯が生えはじめるころに家族、とくに母親から移り住み、歯の表面にネバネバした歯垢（プラーク）を作って住みかたします。そして糖を分解して酸を産生し、その酸が歯を表面から溶かしていきます。これがむし歯の始まりです。

歯の中心に位置する歯髄は血管や神経の豊富な軟らかい組織で、一般に「神経」とよばれています。むし歯がここまで進行すると歯髄内の血管が充血、拡張して炎症を起こします。冷たい水だけでなくお湯もしみるようになり、ズキズキと痛みます。大きなむし歯の穴があき、食べ物が詰まって激痛が起きます。歯髄が化膿して、夜寝ている間に急激に痛み出したりします。こうなると痛みを和らげるためには神経を除去するしかありません。それでも放置しておくと炎症は歯髄全体に広がって、やがて歯髄が死んでしまいます（歯髄壊死）。このとき一旦痛みは治まりますが、その後細菌や歯髄壊死によって生じた毒素は歯根の先の穴（根尖孔）から周りの組織に侵入し、炎症を起こして歯槽骨を破壊し、膿がたまって腫れてきます。さらに長期間そのままにしておくと、球形の肉芽腫ができたり（歯根肉芽腫）、膿の入った袋（歯根嚢胞）になったりします。

治療は、神経の通っていた管（根管）を徹底的に消毒し薬をつけます。清潔だと判断したら根管を密封して最後型をとって歯をかぶせます。したがって1回の治療時間は短いですが治療期間は数ヶ月にわた



たことも多いです。

「神経」を取った歯自体は痛くなることはありません。しかし前述のように細菌や毒素が歯の外に広がったときに歯周組織、とくに歯根膜といわれる感覚受容器が痛くなり、ヒトの感覚では「歯が痛い」という症状を訴えるわけです。

歯がしみると感じたら早めにかかりつけの歯医者さんで診てもらいましょう。

他のあらゆる疾患と同様、むし歯も早期発見、定期検診が大事です。



永田 真一

1962年生まれ。
鹿児島大学歯学部卒業
オーラルケアステーション
永田歯科院長

オーラル ケア ステーション
Oral Care Station 永田歯科

〒892-0828 鹿児島市金生町7-8 鹿児島金生町ビル1F
TEL:099-225-5500 FAX:099-225-5516